



川中便り

平成30年6月29日(金)発行

新発田市立川東中学校

学校便り 第3号

明日はきっといい日になる

校長 三村 孝志

2か月ほど前に「honey」という映画を見ました。たわいもないと言えたらわいもないラブコメディです。平野紫耀（名前も読めず、全く誰だかわかりませんでした。今は知っています。King&Princeのメンバー）と平祐奈（プロサッカー選手長友佑都の妻平愛梨の妹）が出ています。「この春、絶対恋がしたくなる！もどかしい「青春」と「初恋」の詰まった、鬼キューン♡ラブストーリー」なのだそうです。平祐奈の叔父役で高橋優という方が出ていました。初めて見る俳優だったので、「最近出てきた俳優かな」などと思っていたのですが、本業はシンガーソングライターでした。知っている人も多いことでしょう。彼の歌に「明日はきっといい日になる」があります。とてもいい曲だと思いました。通勤途中にときどき聴いています。2015年に発売されたようです。

明日はきっといい日になる いい日になる いい日になるでしょう

くたびれた顔で 電車の中揺られてる人を見た
勇気振り絞って 席をゆずってみた
「大丈夫です」と 怪訝（げげん）そうに断られたそのあと
きまり悪そうに 一人分空いたまんまのシート

「明日はきっといい日になる」はこのように始まります。中学校の国語科教師なら、電車で席を譲るといえば吉野弘の「夕焼け」を思い出す人も少なくないでしょう。二度席を譲って、三度目は譲らなかった娘を描いた詩です。「やさしい心の持主は／他人のつらさを自分のつらさのように／感じるから。／やさしい心に責められながら／娘はどこまでゆけるだろう。／下唇を噛んで／つらい気持ちで／美しい夕焼けも見ないで。」と終わる詩です。

「明日はきっといい日になる」には、「思い通りの 人生じゃないとしても それも幸せと選ぶことはできる」という句があります。印象的で、心に残りました。アランの『幸福論』の一節につながるように思えます。フランスの哲学者アラン（エミール＝オーギュスト・シャルティエ）の『幸福論』には、次のように書かれています。

幸福になろうと欲しなれば、絶対幸福になれない。これは、何にもまして明白なことだと、ぼくは思う。

したがって、自分の幸福を欲しなればならない。自分の幸福をつくり出さねばならない。

自分の幸福の基準は自分で決めることが大切だと思います。他人が幸福を準備・用意してくれることは、多分そんなにあります。自分の幸福は「つくり出さねばならない」ということになります。何を幸福と感じるかは人それぞれです。効率と成果重視の現代社会は「やさしい心の持主」が生きづらい時代のように思えます。ですが、不幸であっていい人間などは存在しません。中学生であろうと、社会人であろうと、不幸なことには必ず直面します。

そのようなときには「あしたはきっといい日になる」と心の中で呟いて、自分の幸福を作り出すように、行動してみましよう。

自分はこうしたいし、こんなふうに考えて、生きていこうと思う、だからこの道を進むのだと思ったら、その道を進むことです。1年や2年で自分の選択が間違っていたかどうかなどはわかりません。大体、人生においては、そううまく「思い通り」になることは少ないものです。また、「思い通り」になったから幸福で、「思い通り」にならなかったから不幸とは限りません。

「あしたはきっといい日になる」は次のように終わります。

明日はきっといい日になる いい日になる いい日になるのさ
笑い合えたらいい日になる いい日になる いい日になるのさ
今日よりずっといいに日なる いい日になる いい日にするのさ
君が笑えばいい日になる いい日になる いい日になるでしょう

川東中学校が、生徒全員笑顔あふれる学校になるように努めたいと思っています。